

やさしいえがお

東日本大震災における当院の取り組み ～第2陣～

東日本大震災 被災者の皆様へ

東日本大震災により被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
皆様の安全と1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

当院では、被災地への派遣を行いました。6月号では、看護師 高台 千恵さんからのご報告を掲載しました。
今回は、5月27日（金）～5月29日（日）の派遣活動をご報告致します。

日 時：5月27日（金）～5月29日（日）
場 所：大槌町寺野多目的体育館内救護所、県立大槌病院仮診療所（岩手県）
チーム構成：大江 洋介 内科医長（八尾市立病院災害医療チーム隊長）
柴田 真理 小児科副医長、松川 麻由美 看護係長、坂上 愛 副主任、
但島 重俊 薬剤部長、岡本 和恵 主任技師、朴井 晃 参事、山本 恵一 係長

第2陣 出発式

5月26日（木曜日）、『東日本大震災 災害医療支援 JMAT 八尾市立病院医療チーム 結団式・壮行会』を行いました。



佐々木 洋院長の激励の言葉を受け、団長の大江 洋介内科医長からご挨拶を頂きました。また、5月27日（金曜日）からの現地への派遣に向けた最終調整の場ともなりました。

なお八尾市立病院は、大阪府医師会における JMAT の中では公的病院として参加している唯一の医療機関です。



医療活動の状況

5月27日より、八尾市立病院医療チームは大槌町寺野多目的体育館内救護所にて診療。5月28日は大江医長、29日は大江医長、松川看護係長が県立大槌病院仮設診療所に派遣され診療対応。柴田副医長以下その他の者は、初日同様に大槌町寺野多目的体育館内救護所にて診療となる。

(左右の写真は大槌町寺野多目的体育館内救護所)



診療受付を終えると、患者さんはこちらに案内される。前方より、医師・看護師、薬剤師、事務の配置で診療を行う。



県立大槌病院仮設診療所の模様。



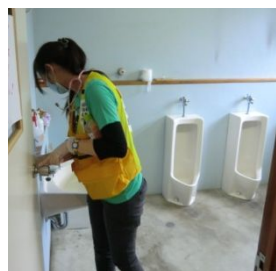
医師、看護師、薬剤師を交えて、救護所内の薬を確認。院内処方に対応できるように打ち合わせを行った。



院内処方が中心である。なお、現地では院外処方にも対応できる体制となってきた。



診察終了後、釜石市災害対策本部で行われる会議に参加。各々の医療チームが集まり、医療機能が重複しないよう情報共有、感染症の報告などを行なっている。



避難所内にて感染症防止の為、除菌活動を行っている。現地の看護師間の引き継ぎにより始まった。



次に派遣された医療チームとの引き継ぎ式。着用のベストは、大阪府医師会より提供されている。



下段中央の男性が植田先生。現地で医院を開設されていたが、震災により被災された。大槌町寺野多目的体育館内救護所にて診療をされている。

被災当日

植田先生が撮影された写真より



現在



植田先生より被災地がどのような状況下にあるかを見てほしいと、現地を案内して頂いた。植田先生の医院は3階まで津波が押し寄せた。震災当日は、4階に避難し救助を待たれていたとのこと。

※上記は、5月27日～5月29日時点の状況であることをご留意ください。

被災地での医療活動を終えて

おおえ ようすけ

内科 大江 洋介 医長



八尾市立病院では8名のスタッフが、5月27日から29日まで、津波被害の大きかった岩手県大槌町に派遣されました。チーム構成は医師2名、看護師2名、薬剤師2名、事務職2名です。

3月11日の大地震以来、多くの災害派遣医療チーム（DMAT）が現地に入りました。皆さんは被災地の医療というこのDMATを想像されるでしょう。しかし、多くの機能を失った現地の医療が復旧するまでには、まだまだ多くの時間がかかります。

今回我々は、「JMAT 大阪」のチームとして活動しました。JMATの活動内容は①被災地病院・診療所の日常診療への支援（災害発生前からの医療の継続）、②避難所・救護所における医療です。

被災地では全国各地から数多くのチームが活動していましたが、毎日開催される災害対策本部の連絡会で、お互いの活動場所・内容や、インフルエンザ等の感染症発生状況を知ることができ、秩序ある支援活動ができたと思います。

2ヶ月以上経過してからの現地入りでしたが、地域基幹病院の仮設診療所や、避難所に机をならべただけの救護所で、地道な診療を通して地元の医療機関が徐々に再生に向かっているんだという実感をもちながら、活動させていただくことができました。

人影の見えない市街地で、瓦礫を撤去する重機のエンジン音だけが鳴り響いている、そんな風景が、いつかまた、見慣れた街並みに戻り、人々の笑い声が聞かれるようにと、復興を念じずにおれません。

この活動に参加させていただいた我々一同、被災地の方から、お互い思いやる心と決してくじけない力強さを分けてもらったと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



しばた まり

小児科 柴田 真理 副医長



JMAT 募集の話聞き、医療者として少しでもお手伝いできることがあればと思って登録し、病院に残った先生方に業務を代わって頂き参加させて頂きました。想像以上の愕然となる光景ではありましたが、一方で被災者の方々の頑張りやと全国の様々な方の支援で、想像以上にがれき撤去が進んでいたり医療体制が整備されつつあったりと、確実に復興の道を前に進んでいることに驚きました。現地の診療の中で感じたいろんな思いを忘れずに今後も日々の診療を頑張っていきたいと思います。



被災地での医療活動を終えて



看護師 看護係長
まつがわ まゆみ
松川 麻由美

被災地域はまだまだ悲惨な状況でしたが、派遣先は私が想像していた光景とは違って、地域の診療所って感じでした。何ができるか不安のまま参加していたので少しほっとしたのも事実です。植田医師がこれからの復興が楽しみと言われ東北の底力を感じ、私まで勇気づけられてきました。



看護師 副主任
さかうえ あい
坂上 愛

現地では、避難所の中に救護所が設置されていました。その中で診察の介助を行ったり、感染予防のため環境整備を行いました。避難所には、たくさんの方が不便な環境の中、前向きに生活されていました。その姿にとっても感動しました。今回の貴重な体験を日々の看護に生かしていきたいです。



薬剤部 薬剤部長
たじま しげとし
但馬 重俊

派遣先の大槌町寺野弓道場では、プライバシーを確保することが困難な状況下でありながらも整然と生活されている被災者の方々に敬意を表するとともに、今後の復興に向けて継続的な社会的支援の必要性を痛感しました。薬剤師としては、震災直後の医薬品供給体制の整備から安全な薬物療法を提供するために、代替医薬品の適切な選択が実践できる知識の重要性が再認識することが出来ました。



薬剤部 主任技師
おかもと かずえ
岡本 和恵

派遣先の仮設診療所では主に調剤や薬の管理を行いました。医療機関が復旧し始め、5月末で診療所は閉鎖となりましたが、被災地の被害は甚大で、長期的に継続した支援を求められているように感じました。今回の経験を踏まえて、被災地の現状に沿った支援活動を今後も行いたいと思います。



事務局 参事
ほくい あきら
朴井 晃

「感謝」の気持ちで一杯です。「温かな気持ちで迎えてくださった大槌町の植田先生と町民の皆さんに」「派遣チームに参加させてくれた病院に」「充実した活動にしてくださいメンバーに」「災害医療を経験できたことに」ありがとうございます。



企画運営課 係長
やまもと けいいち
山本 恵一

岩手県大槌町へ災害支援に参加させていただきました。甚大な被害状況を目の当たりにし、とても言葉では表現できません。住民、ボランティア、国などが力を合わせて立ち上がろうとしている姿が印象に残っています。近い将来、大槌町が復興されますようお願い申し上げます。

